

年の変わり目 気持ちの節目

校長 小林 隆裕

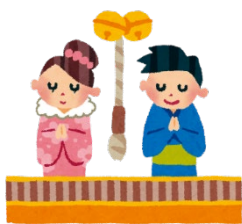
年の瀬が近づき、学校では二学期の終業式を迎えようとしています。学校生活における大きな区切りは、卒業と入学そして学年の変わり目を迎える3月から4月にかけてですが、学期末と年の変わり目を同時期に迎える今のこの時期も、また大切な節目なのかなと考えています。

日本では、「節目を作って気持ちを切り替えていこう!」という精神文化が昔からあって、現代の私たちの生活の中にも垣間見ることができます。例えば、暑気払いには「忘暑会」。年の瀬には「忘年会」。108つの煩惱を「除夜の鐘」で捨て去って、心機一転新しい年を迎える準備をします。1年は12か月ですが、日本ではさらに細かく二十四節気を設定し、変わり目や節目として、気持ちをこまめに切り替えてきたのだらうと思います。



とはいうものの、基本的に、今日は昨日の続きですし、明日もきっと今日の続きです。そう思いながら普段の日常を過ごしています。日ごとの境目を示す時刻や時間は、あくまでも人間が決めたもの。国の国と境界線だって、宇宙から見て陸地に線が引かれているわけではありません。

それでも、私たちの祖先は、時間の流れにあえて節目を設け、その都度、気持ちを切り替えて前へ進もうという意志をもって、年月を過ごしていたのだらうと思います。ことあるごとに気持ちをリセットして、新たな気持ちで前向きに進んでいこうというのが日本の精神文化とも言えます。切り替えるところは切り替えつつも、大切なことは忘れることなく年をまたいで持っていくべきなののだらうと考えます。



冬休みが始まります。それぞれのご家庭でも、年末年始の準備をされることと思います。

暮れの大掃除、しめ縄の付け替え、鏡餅の準備、おせち料理づくり、年越しそば、初詣、お雑煮、お年玉、年賀状、初夢、書き初め、そして和服を着る人が増えます。こうして並べてみると、年末年始は、とっても日本的なものに触れる日々なのだ、と思い至ります。

2学期の終業式でも、子どもたちにいくつか紹介しますが、ご家庭でも年末年始の行事等の由来や意味についてお話していただければと思います。

そして「一年の計は元旦にあり」。年の変わり目を気持ちの節目にできるよう、どんな一年にしたいか、目標や抱負について、お子さんと語り合う時間を作っていただけたらと思います。

今年一年間、皆様から、藤塚小学校の教育活動に多大なご理解とご協力を賜りましたこと、そして子どもたちの成長を支えてくださったことに、深く感謝申し上げます。

どうぞよい年をお迎えください。そして、来年もどうぞよろしく願いいたします。